

「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 3 年 4 月 15 日

事業名称		企画業務費 [東京都市町村総合交付金まちづくり振興割地域特選事業枠の補助制度活用事業]										
予算科目	款	2	総務費	項	1	総務管理費	目	7	企画課	事業番号	1	
事業の種別	<input type="checkbox"/> 市単独 <input checked="" type="checkbox"/> 補助対象 <input type="checkbox"/> 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)											
担当部署・課長名	企画			課			企画担当		係	課長名	荒井 亮二	
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。									施策番号	行 - 2		
【施策名】 効率的でスリムな行財政運営の実現									総合計画書 (ページ)	122		
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)						
	東京都市町村総合交付金まちづくり振興割地域特選事業枠					東京都市町村総合交付金まちづくり振興割地域特選事業枠の東京都予算計上額						
	→											
2 指標の推移	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)						
	東京都市町村総合交付金まちづくり振興割地域特選事業枠の補助制度を活用し、市が実施する事業に充当することで、財政の健全化を図る。					交付決定額						
	→											
3 経費	③ そのために何をしましたか。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)						
	①各課と調整し、積極的に申請案件として計上した。					①調査回数：回 ②申請事業数：事業数 ③交付対象経費：円						
	→											
4 環境変化等	(1) 開始年度 平成18年度											
	(2) 環境の変化											
	<p>・平成18年度の創設当初は、東京都と市町村が一体となったまちづくりを進めるとともに、地域の将来の発展に向けた課題を解決するため、市町村が地域特性や独自性・先進性の視点に立って取り組むまちづくり事業に対して支援することを目的としていた。また、平成29年度までの本事業の位置付けは、地域の将来の発展に向けた課題を解決するため、市町村が地域特性や独自性・先進性の視点に立って取り組むまちづくり事業に対し、東京都が支援するものとしていたが、平成30年度からは、先進性という視点は重視されなくなった。そのため、地域特性や独自性の視点があれば、他の自治体で既に実施されている類似した事業においても対象となったほか、各年度1市町村につき申請できる事業は最大5事業まで、という制限が設けられた。</p>											

事業名称	企画業務費 [東京都市町村総合交付金まちづくり振興割地域特選事業枠の補助制度活用事業]			
担当部署・課長名	企画	課	企画担当	係 課長名 荒井 亮二

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和2年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	・特にない。			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。(複数回答可)			
	<input type="checkbox"/> 取り組んだ	取組手法：		
	<input checked="" type="checkbox"/> 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体：) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()		
(2)令和3年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点				
7 課題	(1)令和2年度に課題とした内容(「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3)を転記)			
	・東京都への申請日程がタイトであるため、各課への確に本制度の趣旨が伝わり、速やかに事務手続に入れるよう、申請方法をよりわかりやすく記して依頼する必要がある。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和2年度に実施したこと。			
	・東京都から依頼があり次第、速やかに全庁宛の通知を発信し、幅広く事業を募集を行い、翌年度の募集に関する早めの周知に努めた。 ・主管課より問い合わせがあった場合、申請につながるよう詳しい説明に努め、積極的な申請を勧めた。また、各事業内容を正確に把握するため、積極的に申請のあった課へ質問や確認等を行い、理解に努めた。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案)			
・東京都への申請日程がタイトであるため、各課への確に本制度の趣旨が伝わり、速やかに事務手続に入れるよう、申請方法をよりわかりやすく記して依頼する必要がある。				
8	施策貢献状況 (この仕事は、総合計画(基本計画)に掲げる課題の解決手段になっているか。)			
施策名： 効率的でスリムな行財政運営の実現				
<input checked="" type="checkbox"/> なっている <input type="checkbox"/> 環境の変化等により成果が減少している <input type="checkbox"/> 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名()				
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性(「7 課題(3)」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止			
	【取組内容】 ・東京都からの通知を要約のうえ、全庁へ向けた通知文をわかりやすく作成し、庁内各課において対象事業のイメージが湧きやすくなるよう工夫する。また、補助対象となる可能性がある事業を幅広く選定し、その内容を理解することに努め、事業担当課との調整を行っていく。			
(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等				
・本制度について、以前からの変更点も含めて理解に努めるとともに、事業担当課で行っている事業の内容について、東京都のヒアリングの場で企画課から説明する必要があることから、その事業内容を十分に把握しておく必要がある。 したがって、事業担当課と十分な情報共有を行い、細かな不明点等を確認すると同時に、事業担当課でなくとも、ヒアリングの場で東京都の担当者に内容が説明できる程度にまで理解しておく必要があり、ヒアリングの下準備としての調整や確認書類の取り寄せ、詳細な内容確認等を綿密に行う必要がある。				